

ひと

米国の日本研究を支える大学図書館司書

よこた 横田 カーター 啓子 さん(56)



「日本の発信力を高める！」と
うたう国際フォーラムを20日、横
浜で開く。

米国の大学図書館の司書らによ
る日本研究支援の団体「北米日本
研究資料調整協議会」の代表を務
める。経済力の陰りと中国の台頭
で研究の環境は厳しい。深刻なの
が資料のデジタル化の遅れだ。

「学生はデジタル文献しか利用
しなくなっています。このままで
は日本研究は衰退してしまおう」

津田塾大学を卒業後、女性が活
躍できる場を求めて米国へ。現実
は厳しく悩んだが、日本語講師に
なったのをきっかけに道が見えて
きた。国際教育学と図書館情報学
の修士号を取り、1999年、ワ
シントン大学東アジア図書館で日

本学研究司書に。この8月、全米
屈指の日本研究拠点ミシガン大学
アジア図書館に移った。日本学研
究の資料を購入する権限を持ち、
保存と活用 of 全責任を負う。

米国の日本研究の基本は「敵を
知る」という戦略だが、人々の日
本理解を深めることは平和的な関
係の基盤となると信じている。

それだけに、クールジャパンの
浸透で世界が日本情報を求めてい
るのに、好機を生かせない日本が
歯がゆい。でもあきらめず、「自
分にできることは何でもする」。

ストレスは多いが、インド映画
を見て習い始めた「ポリウッドダ
ンス」で発散する。故郷大阪のノ
リに似ていて合うそうだ。

文 伊佐藤子 写真 遠藤真梨